

# 個展の企画・開催による地域の芸術文化継承 — 荒川公圭展の開催 —

川野研究室（建築・住居分野）  
A20AB111 二村唯日

## 1.はじめに

### 1-1.企画の背景

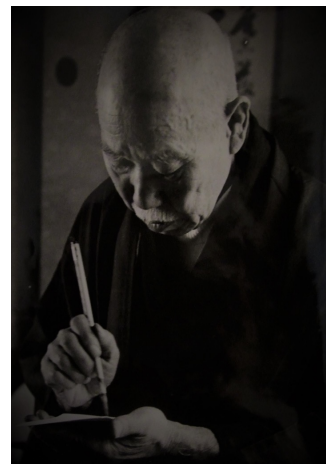
本企画を実施する西尾市は、佐久島を代表とする芸術活動がある一方で、美術館はなく、美術作品に市民が触れる機会は限定的である。私は現在、学芸員課程を履修しており、本課程で学んだ知識を活かしながら、卒業研究を行いたいと思い、研究のテーマとした。

また、今回の個展で取り上げる荒川公圭は、私の曾祖父であり、西尾市の画家として活動していたことも起因している。

### 1-2.荒川公圭について

荒川公圭(1889～1957)は、写実を得意とする画家として、また俳人として生きた人物である。現在も西尾市岩瀬文庫をはじめとする市内の施設及び寺院に多くの作品が残っており、西尾市で親しまれた画家である。大正10年の大日本画家名鑑には「西尾町熊味に住み、写実を得意とし、一流と評された。」と記されている。

参考文献：「郷土ゆかりの作家作品」  
「岡崎詞花の森へ」



【写真1】荒川公圭

### 1-3.個展開催意義・目的

本企画の意義・目的は以下の3点である。

#### 1. 地域の芸術文化に対する関心向上

個展の開催を通じて、地域にどのような文化作品があるのかを把握し、より多くの芸術文化に触れることで地域の芸術文化に対する理解と関心を高めることを狙いとする。

#### 2. 地域への貢献

地域の芸術文化に基づいた活動を通じて、西尾市に還元することで、地域社会の文化的な豊かさを促進する一環として貢献したい。

#### 3. 地域作品の保護・継承

今まで知られていなかった曾祖父の情報を明らかにし、さらなる作品の保護と継承に役立ちたい。

## 2.企画の実施方法

### 2-1学芸員へのヒアリング

2023年6月17日、開催手順について西尾市岩瀬文庫の学芸員の方にヒアリングを行った。ヒアリング結果を元に、開催までの手順やスケジュール調整を行い、開催要項をまとめた。

### 2-2.開催要項

◇ 会期	令和5年11月22日～11月26日
◇ 開催時間	午前10時～午後5時
◇ 会場	西尾市尚古荘 茶室「不言庵」
◇ 展示作品	掛け軸、色紙、短冊など約40点
◇ 入場料	無料
◇ ターゲット	美術や文学に関心のある市内在住の方
◇ 主催	川野研究室
◇ 後援	海蔵寺、宝珠院(順不同)

### 2-3.会場の検討・決定

作品の雰囲気、作品数、立地、会場の規模感を考慮した結果、会場は西尾市錦城町に在る西尾市尚古荘に決定した。西尾城から徒歩5分に位置し、現在でもお茶会などが行われる京風庭園である。本展は茶室「不言庵」で行う。



【写真2】西尾市尚古荘



## 3.開催準備

### 3-1.作品の選定

展示作品は海蔵寺から23点、宝珠院から9点、西尾市岩瀬文庫から作品の画像データを3点、市内在住の方から13点をお借りし、市内古書店(古本の中央)で私費買取した8点を含めた合計56点の中から選定した。以上の結果、37点を展示することとした。展示が出来ない作品に関しては作成した図録に掲載した。

分類	点数	所蔵元
掛軸	12点	海蔵寺、宝珠院、個人蔵、自宅
短冊	9点	海蔵寺、個人蔵、自宅
色紙	7点	海蔵寺、宝珠院、個人蔵、自宅
抹茶茶碗	3点	海蔵寺、個人蔵、自宅
その他	6点	海蔵寺、宝珠院、個人蔵

【図表1】作品リスト



【写真3】図録表紙



【写真4】図録中身

### 3-2.展示計画

本展のメインとなる掛け軸は入り口から見えるように和室へ展示するよう計画した。また、破損などの危険性が高い茶碗や菓子器、劣化が進んでいた写生帳、俳句帳は常に自分の目の届く和室へ展示することとした。色紙と短冊、雪洞など匂にまつわる作品や、公圭に関する書籍、図録などは手に取って見てもらえるよう土間に展示し、空間にまとまりを持たせることを意識した。



【図表2】尚古荘不言庵 平面図



【写真5】展示の様子

### 3-3.広報

#### (1) チラシ・ポスター作成

宣伝用として会期や会場などの開催情報を記載したチラシとポスターを作成した。

#### (2) チラシ・ポスター設置場所

西尾市尚古荘、市内古書店「古本の中央」、八ツ面ふれあいセンター、パルススポーツクラブ6.3に設置し、チラシを西尾市観光案内所、ベルコーヒー、岡崎市美術館、岡崎美術博物館、おかざき世界子ども美術博物館に設置した。

#### (3) 新聞・SNS等

三河新報社の11月18日朝刊、11月23日朝刊、中日新聞社西三河版の11月25日朝刊に掲載された。



【写真6】ポスターデザイン



【写真7】取材の様子



【写真8】中日新聞

## 4.個展の開催

### 4-1.来場者アンケート

集計結果から、アンケート回答数は313名、未回答者を含めると概ね350名が来場した。男性が36%(113名)、女性が64%(200名)で年齢層は70代(83名)が最多となった。西尾市内からの来場が67%と最も多かったが、新聞に掲載された影響もあり、西尾市近隣の西三河地方からの来場も29%と多数であった。荒川公圭の認知度は、知らなかったと答えた方が76%と半数以上であったが、「西尾市にこんな画家がいたと知ることができて良かった。」という意見を多くいただくことができた。美術館へ足を運ぶ頻度は年に一回以下という回答が最も多く、市民に美術や文学に触れる機会を提供することができた。

### 5.おわりに

本展の開催が芸術に触れる機会を提供し、西尾市の芸術文化継承に貢献できた。今回の開催を西尾市の芸術に興味を持つきっかけとし、更なる西尾市の芸術文化の発展に期待したい。